

来年に持ち越せないNISAで何に投資する？
NISA開始から8カ月で、人気のあるのは
REITファンドやグローバルの株・債券ファンド。

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISA 口座をまだ開設していない人はまず「9月30日まで」の手続きを検討したい

9月に入り、NISA(少額投資非課税制度)元年の2014年(1~12月)も残り4カ月を切った。金融機関の中には、「9月30日までのNISA口座開設で現金プレゼント」、さらに「NISA口座で投信を購入すると現金プレゼント」と、言ったキャンペーンをしている所が増えている(*後者については「12月30日まで」と言う金融機関もある)。

「9月30日まで」とあるが、税制上は2017年、2021年、2023年にあてはまるものの、それ以外の年については(今年2014年も含め)、「12月末まで」口座開設が可能だ。

NISA(少額投資非課税制度)の「非課税適用確認書の交付申請書」の提出期間と勘定設定期間と基準日

	「非課税適用確認書の交付申請書」 提出期間	勘定設定期間	基準日 (この日の住所を証する 住民票の写し等を添付)
第一期 勘定設定期間	2013年(平成25年)10月1日~ 2017年(平成29年)9月30日 の4年間	2014年(平成26年)1月1日~ 2017年(平成29年)12月31日の4年間	2013年(平成25年)1月1日
第二期 勘定設定期間	2017年(平成29年)10月1日~ 2021年(平成33年)9月30日 の4年間	2018年(平成30年)1月1日~ 2021年(平成33年)12月31日の4年間	2017年(平成29年)1月1日
第三期 勘定設定期間	2021年(平成33年)10月1日~ 2023年(平成35年)9月30日 の2年間	2022年(平成34年)1月1日~ 2023年(平成35年)12月31日の2年間	2021年(平成33年)1月1日

(出所: 2013年度税制改正法より国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

ただ、税制上は可能でも実際の口座開設は不可能である。下記の通り、数週間、場合によって数カ月が必要となる。

- ①住民票を取得する期間(*金融機関の提供する住民票取得代行サービスは1~2カ月程度かかる場合もある)
- ②口座開設申込後に金融機関が税務署に「非課税適用確認書の交付申請」を行う期間(*金融機関次第)
- ③「非課税適用確認書」が金融機関に送付されるまでの期間(*「3~4週間前後、金融機関がe-Taxを使う場合は2~3週間前後」~URLは後述[参考ホームページ])
- ④国税庁から送付された「非課税適用確認書」で金融機関が口座開設手続を行う期間(*金融機関次第)
- ⑤口座開設の連絡を受けた人がその口座で投資をして受渡をするまでの期間(*上場株式・ETF・J-REITは12月25日までの約定、一般的な投資信託は12月22日前後までの注文/申込で2014年中の受渡となる)

つまり、NISA口座をまだ開設していない人で、住民票取得代行サービスを利用する場合は、今月手続きを検討し、住民票を持っている人は11月中旬までに手続きを検討したい。また金融機関の現金プレゼント等キャンペーンを享受したいのなら、その金融機関の提示する期限、例えば、「9月30日まで」の手続きを検討したい。

NISA口座を開設しただけの約7割の人は12月22日前後までの投資を検討したい

NISA口座を開設してあるが、まだ投資をしていない人もいる。日本経済新聞社の6月末時点の調査(主要証券10社ベース)では、NISA口座で実際に投資をしている人の割合は口座開設者全体の29%、1口座あたりの平均投資額が66万円にとどまっていると言う(8月15日付日本経済新聞朝刊)~URLは後述[参考ホームページ]。

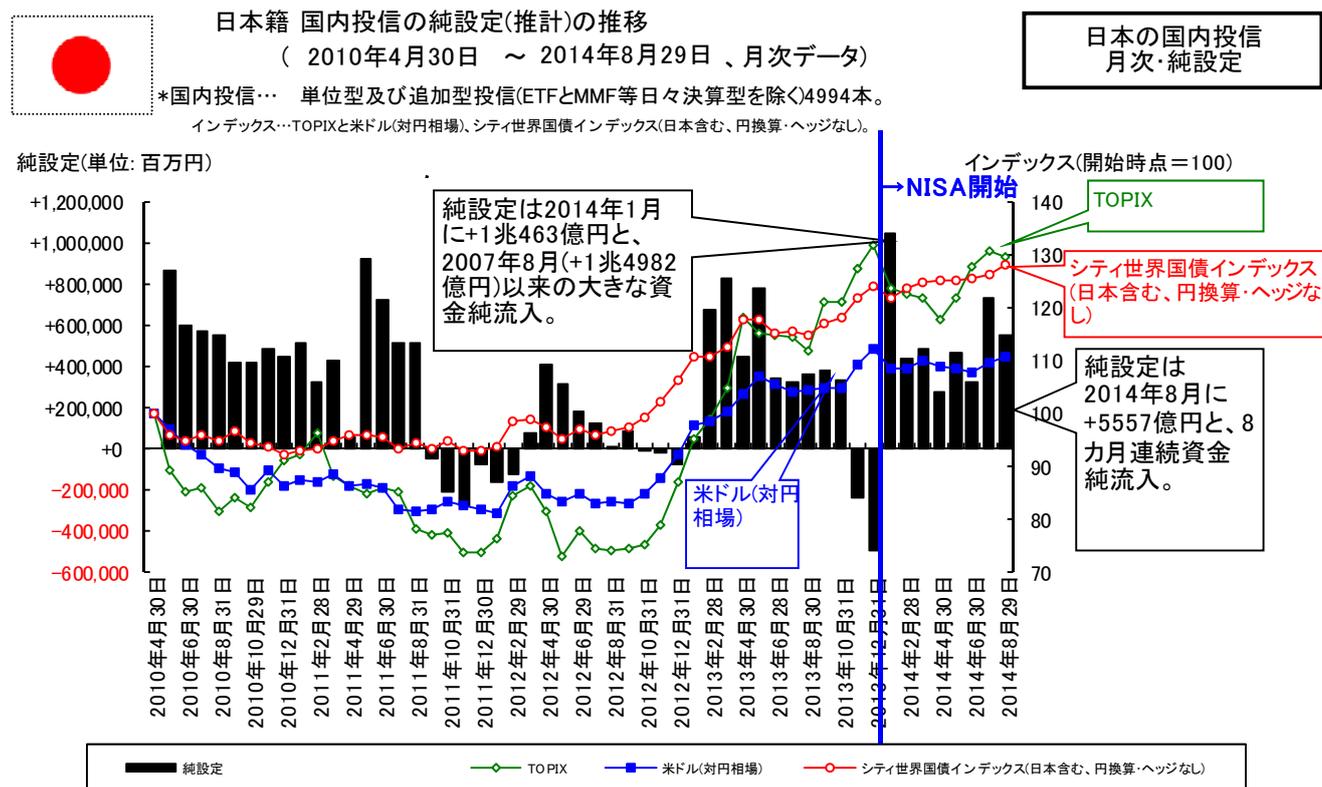
つまりNISA口座を既に開設しているのに、一切投資をしていない人が約7割いる。NISA口座を開設しただけで投資をしていない人は、このまま年末になれば、2014年に与えられる100万円の非課税枠を全て放棄する事となる。また、投資をしていても一部だけ、例えば66万円しか投資をしていない人は、このまま年末になれば、残りの34万円の非課税枠を放棄する事となる。ここで、忘れがちな重要な事は、放棄するのは、2014年1年間だけではなく、翌2015年から2008年までの4年間の非課税枠を放棄する事。4年以上もあれば、その間に値上がりする可能性はあるだろうし、利息・配当金等の積み上がる可能性は高い。4年以上の非課税を放棄する事となる。2014年に与えられた5年間の非課税枠100万円を放棄したくないと考えるなら、12月22日前後(根拠は前頁の⑤を参照の事)までには投資を検討したいものである。

2014年9月1日付ニッキン投信情報には「非課税枠は来年に持ち越せないので、『使わないともったいない』と訴求するキャンペーンを行いたい」とあり、8月27日付サイ・オンラインには「すでに口座開設をした人でも、入金をしていなかったり、まだ取引をしていない人も多い。残り4カ月でタイミングをみながら、ぜひ有効に100万円の非課税枠を利用すべきだ。」とある通りだ(URLは後述[参考ホームページ])。

既存投資家の人気はグローバル株ファンドとREIT、グローバル債ファンド

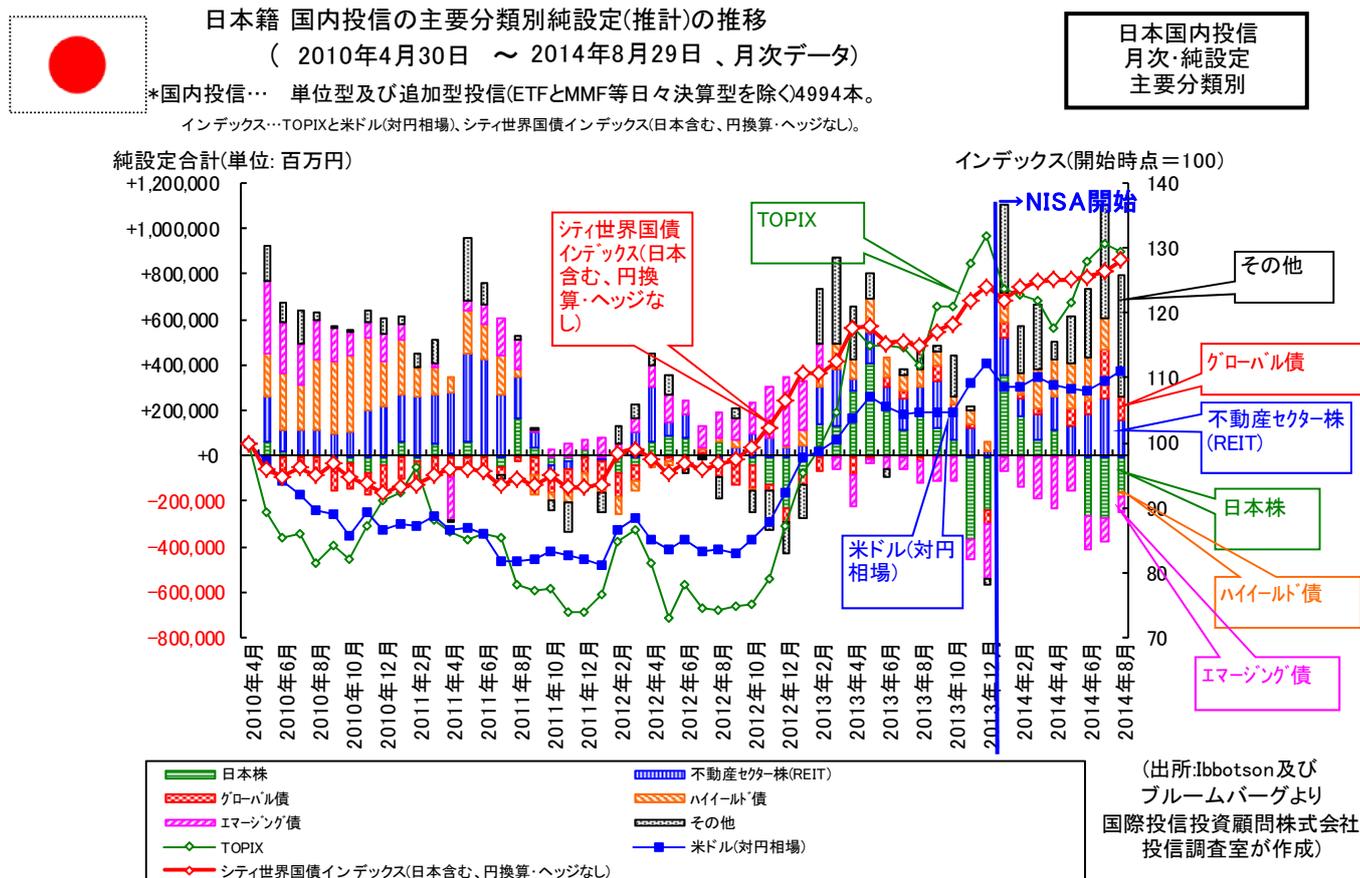
NISA口座開設者が投資を検討したいと言っても、何に投資をすれば良いかわからない。そこで参考になるのが、これまでに実際、NISA口座でどのようなものに投資されてきたかだ。そこで、最新8月までのNISAの投信動向を見る。NISAのファンド動向を見るにあたって、投資家を、既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分ける。前者の既存投資家はNISAで実際に投資をしている投資家の大半を占めているとされるが、それを投信全体の動向で代替し、後者の新規投資家はNISA向けファンド(後述※参照)で代替する事とする。

まず前者の既存投資家であるが、投信全体の純設定推移を見ると、8月は+5557億円と、8カ月連続の資金純流入で、年初来(2014年1月~9月)では1月と7月に次ぐ3番目に大きい純流入額となった。



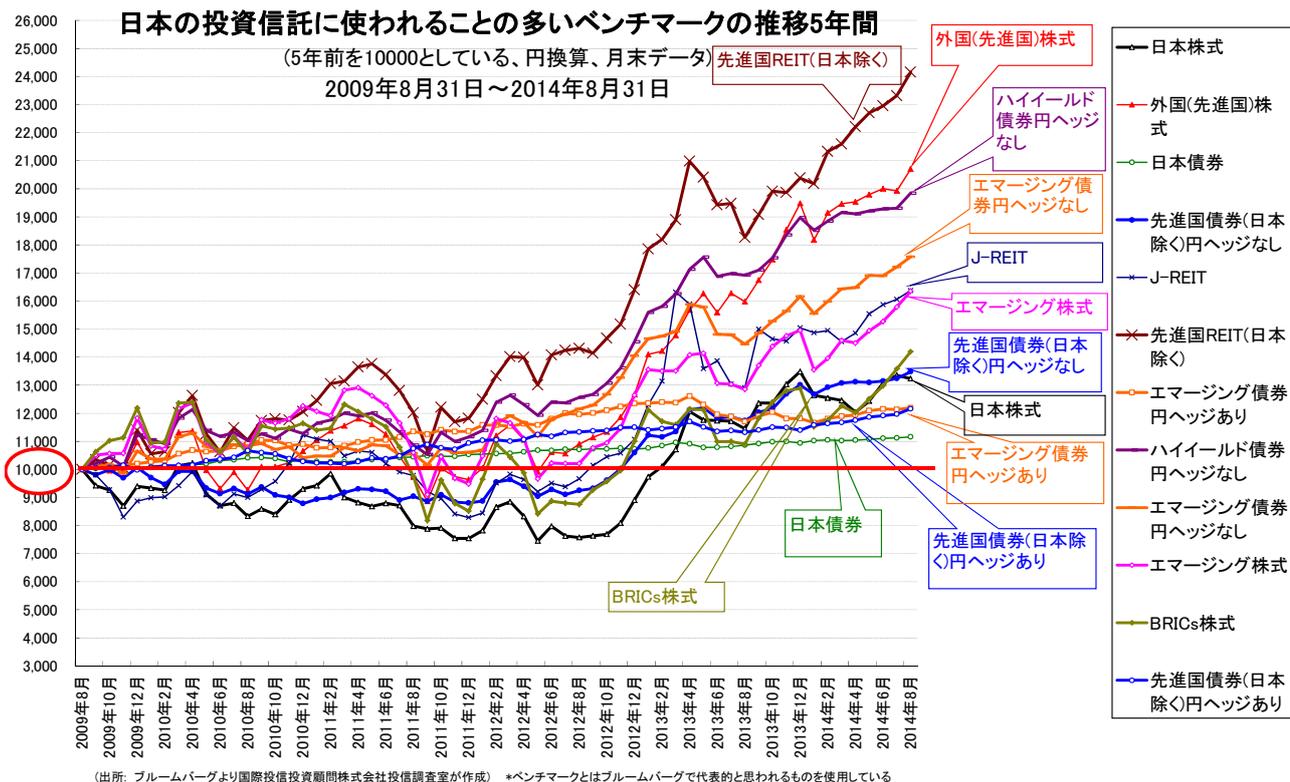
(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

2013 年末の軽減税率終了にかけ解約が膨らんだ後、2014 年 8 月にかけて安定的な資金純流入が継続している既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。最新 8 月はグローバル株ファンドが最も大きな純流入で、不動産セクター(REIT)ファンドがそれに次ぎ、さらにグローバル債ファンド、日本債ファンドなどに資金が集まっている(*グローバル株ファンド、日本債ファンドはグラフでは「その他」に含まれる)。一方、日本株ファンドは 3 カ月連続純流出、REIT ファンドと並び NISA で人気の続いていたハイイールド債ファンドが 8 月に小さいながらも 2012 年 10 月以来の純流出となり、エマージング債ファンドも純流出が継続中である。



グローバル株ファンド、REIT ファンド、グローバル債ファンドに資金が集まる理由だが、パフォーマンスが好調だった事がありそうだ。投信に使われることの多いベンチマークを見たのが次頁上段グラフである。

パフォーマンスの好い順に、先進国 REIT、先進国株式、ハイイールド債券、エマージング債券などとなっている(*5 年前を 10000 としている、円換算、月末データ)。



新規投資家の人気はグローバル債・アロケーション積極型・グローバル株

次に新規投資家であるが、NISA 向けファンド(後述※参照)の純設定を見ると、最新 2014 年 8 月は+1042 億円と、NISA 投資開始 2014 年 1 月以来 8 カ月連続の資金純流入であるものの、年初来で最も低い水準となっている。

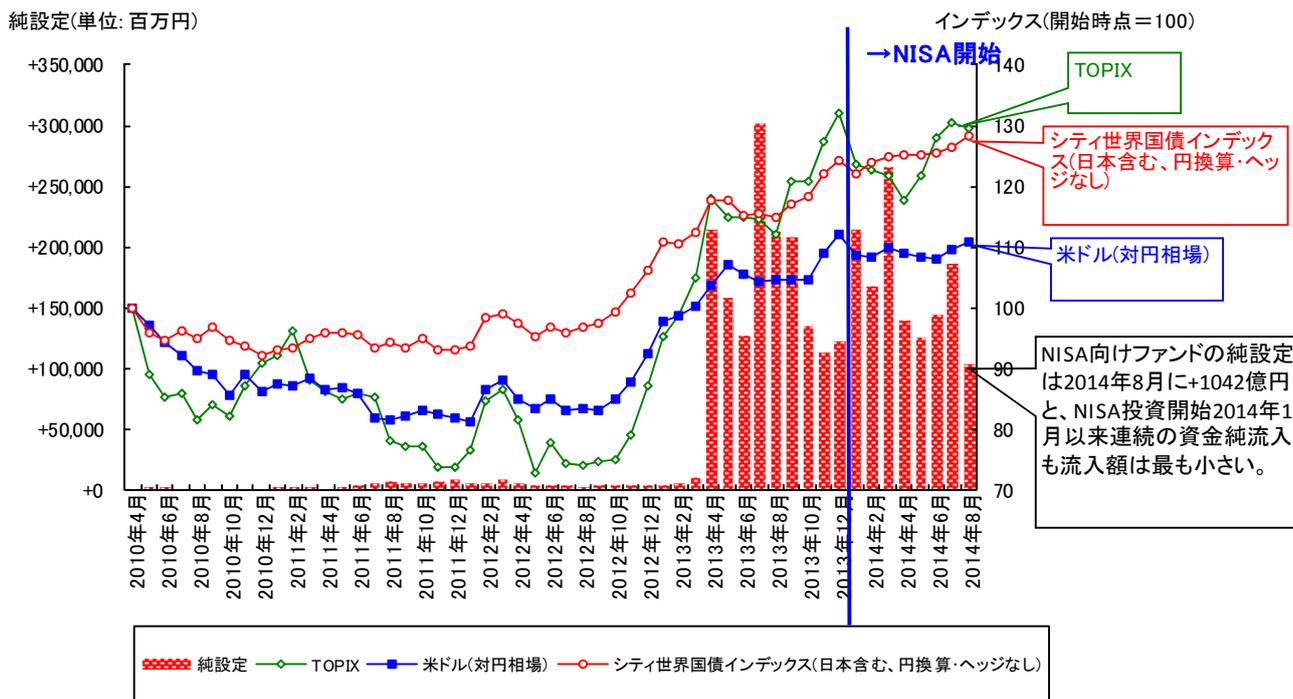


日本の NISA向けファンド(ETFを含む追加型)の純設定(推計)の推移
(2010年4月30日～2014年8月29日、月次データ)

*NISA向けファンド(ETFを含む追加型)… 2014/08/29 現在640本ある現存ファンドについて。

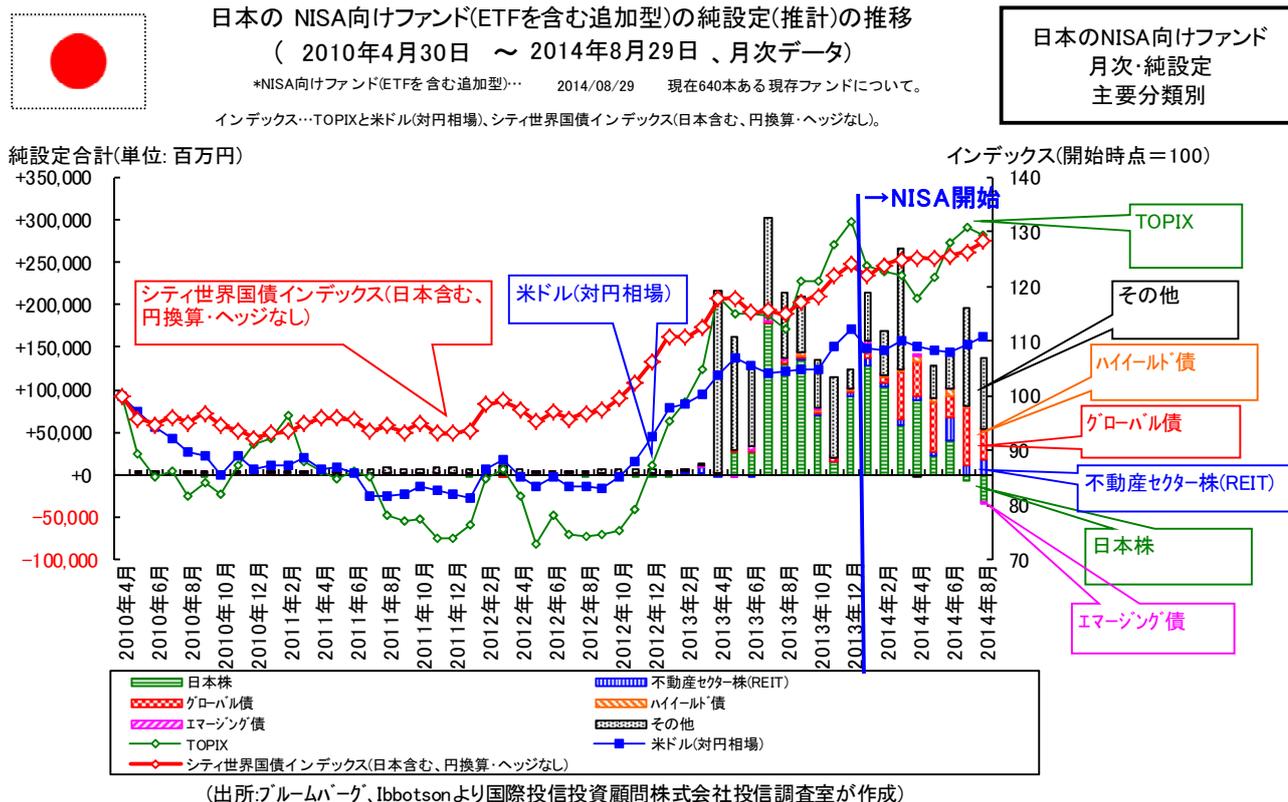
インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド
月次・純設定



(出所: フルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

8月に純流入が小さくなった新規投資家と思われる投信の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。純流入1位はグローバル債ファンド(前月2位)、同2位はアセットアロケーション積極型(*グラフでは「その他」に含まれる、前月8位)、同3位はグローバル株ファンド(前月25位)、同4位はアセットアロケーション柔軟型ファンド(前月1位)、同5位は不動産セクター(REIT)ファンド(前月5位)となっている。その中、NISA向けファンドで1月より主力となっていた日本株ファンドが、前月に引き続き8月も大きく純設定額を減らし25位(最下位)と、2カ月連続の純流出となった(7月24位←6月2位)。新規投資家では、現在、グローバル債ファンドやアロケーション積極型が人気のようにみえる。



※「NISA向けファンド」・・・投資信託協会の言う「NISA向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。なお、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2014年8月29日時点で640本となった。

証券会社における実際の人気はREITファンド

ここで、証券会社各社が発表する実際の投資動向も見る。2014年9月4日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、8月のNISA口座月間買付ランキングのあるのは大和証券やマネックス証券など少数だった。

大和証券では8月の月間買付金額ランキング1位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位はカナダ株ファンド、3位米国株ファンド、4位アジアパシフィック債ファンド、5位海外債ファンド(前月は1~4位同じ、5位は米国債ファンド)となっている。マネックス証券では8月に月間売れ筋ランキング1~3位は不動産セクター(REIT)ファンド、4位グローバル株ファンド、5位日本株ファンド(前月1・3・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・5位アロケーション柔軟型ファンド)となっている(URLは後述[参考ホームページ])。

買付ランキングを一般のHPに公表している証券会社は少ないため、年初から8月末にかけての買付に値上がり・値下がりを加えたNISA口座・保有残高ランキングを発表しているネット証券会社も参考として見る。

最大手であるSBI証券のNISAランキング・投資信託では、NISA導入から約8カ月後の最新9月1日現在、1~4位不動産セクター(REIT)ファンド、5位日本株ファンド(前月も同じ)となっている(URLは後述[参考ホームページ])。楽天証券のNISAランキング・投資信託では8月29日現在、1~3位不動産セクター(REIT)ファンド、4位日本株ファンド、5位不動産セクター(REIT)ファンド(前月も同じ)となっている(URLは後述[参考ホームページ])。

先述した既存投資家および新規投資家の両方で見られたように、REITファンドの人気は7月も継続しているほか、パフォーマンスが好調な先進国株式ファンドなどに人気が集まっている傾向がみられる。

実際に投資をしている人もまた高配当利回り志向、わかりやすい値上がり志向が多い

証券会社のNISAで人気の高いREITファンドのほか、既存投資家や新規投資家ではグローバルの債券ファンドや株式ファンドの人気も見られた。9月となり、今年も残り4カ月、今後はどうなのだろうか？

「9月期末が近づき、高配当利回り銘柄が物色のテーマとして注目される時期がやってきた。…(略)…。5銘柄を1単元ずつ買っても約78万円。実は10万円台で買える大型株は多いことがわかる。これならNISA口座でも投資しやすい。」(2014年8月27日付サイオンライン~URLは後述[参考ホームページ])と言われるが、10万円台でいくつもの内外の銘柄を買えるのが投資信託である。

そこで最後に、先述した日本の投資信託全体の純設定額を直近配当利回り別に見る(*直近配当利回り…ブルームバーグの「BBG直近配当利回り(税込)」のことで直近の分配金額を年換算、現在の基準価額で割った値)。

2014年8月にかけて直近配当利回りの5%以上10%未満や10%以上15%未満のファンドが純流出となる中で、15%以上や20%以上、25%以上のファンドが純流入となっている。これは直近配当利回りのより高いREITファンド、さらに、そのREITファンドに為替取引によるプレミアム(*内外金利差相当)やカバードコール取引によるプレミアム(*REITのコールオプションを売って得られるプレミアム)を加えて直近配当利回りを高めたファンドへの人気と思われる(先の証券会社各社が発表する実際の投資動向にも示される)。一方、0%以上5%未満のファンドも安定的な純流入であるが、これは日経平均のインデックス・ファンドの様に、値上がりが期待出来ると共にわかりやすいファンドの人気と思われる。NISAで実際に投資をしている人もまた高配当利回り志向、わかりやすい値上がり志向が多いと言えそうである。

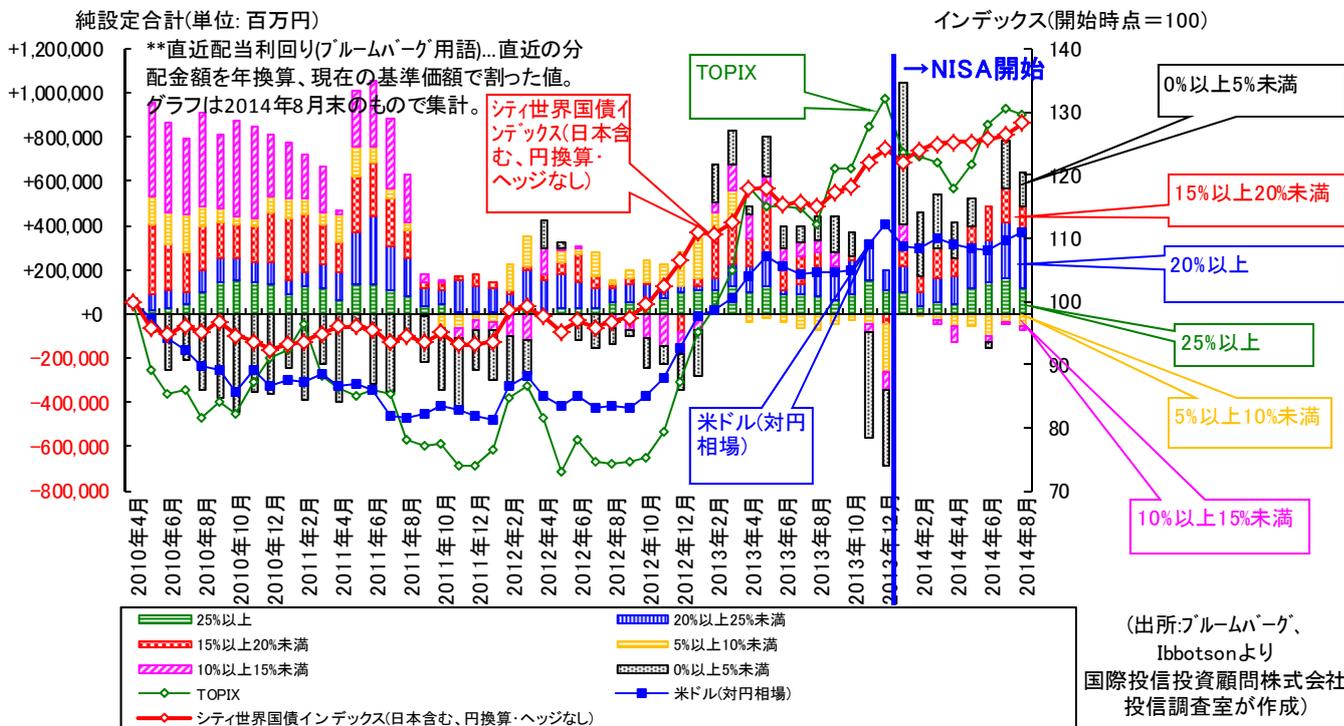
以上、NISAにおける投資信託の最新動向だった。引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見てNISA動向を判断していきたい。

日本籍 国内投信の直近配当利回り別純設定(推計)の推移
(2010年4月30日 ~ 2014年8月29日、月次データ)



*国内投信… 単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)4994本。
インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本国内投信
月次・純設定
直近配当利回り別



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより
国際投信投資顧問株式会社
投信調査室が作成)

【参考ホームページ】

2014年3月付国税庁…「<http://www.nta.go.jp/gensen/nisa/pdf/toshikaqa.pdf>」、2014年7月28日付日本版ISA その65「NISA 目標達成にはNISA 非課税限度額引き上げが有効！12月までの未使用分投資と1月における非課税限度額の最大限享受を期待～本家英国ISA が示唆すること～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140728.pdf>」、2014年8月15日付日経電子版「NISA、秋から勝負 証券会社、年内枠駆け込み」…「http://www.nikkei.com/article/DGXDasGD14H2Z_U4A810C1EN1000/」、2014年9月1日付ニッキン投信情報…「<http://www.nikkinn.co.jp/toushin/>」、2014年8月27日付ザイ・オンライン…「<http://diamond.jp/articles/-/58237>」、大和証券のNISA口座月間買付ランキング…「<http://www.daiwa.jp/service/isa/ranking.html>」、マネックス証券のNISA投資信託・販売額ランキング…「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NisaMonthlySales>」、SBI証券のNISAランキング・投資信託・保有残高…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、楽天証券のNISAランキング・投資信託・残高…「<https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/>」。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。
○本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
○本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
・シティ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケッツ・インクの開発したものです。